

矢作川流域圏懇談会

令和4年度
川部会ふりかえり

令和5年1月31日（火）

1.川部会の活動進捗報告

《令和4年度の当初目標》

土砂をキーワードに他部会を巻き込んだ情報共有と意見交換を行うとともに、昨今頻発する自然災害や環境の悪化に注目し、矢作川の望ましい姿を検討する。

<テーマ>

上下流問題
(生き物の棲みやすい
川づくり)

地先の問題

<解決手法>

①本川モデル

- ・流域における土砂の役割を再認識するとともに、山・川・海の立場に共通する望ましい条件を抽出し、関係する国や自治体に、その条件を共有する。
- ・鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）、干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）について、海部会と合同で状況を把握し、双方の利益に関する意見交換を行う。また、より好ましい事業に向けて、関係者への働きかけを行う。

②支川モデル

- ・支川で活動する団体を訪問し、流域における支川の役割をとりまとめる（川部会の記録として残す）。

③地域連携モデル

- ・ごみ問題に関する情報共有を行う。
- ・外部団体（生体系ネットワーク協議会等）と連携する。

2.川部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動スケジュール

川部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第59回WG（24名）	6月3日（金） 13:30-16:20	豊田市崇化館交流館 1階 工芸室
海・川合同部会FW・WG/ 現地視察（24名）	11月22日（火） 10:00-16:15	鶺鴒の首掘削箇所・ヨシ原再生箇所・ 干潟造成箇所・西尾市文化会館
第61回WG（18名）	12月12日（月） 10:00-12:00	岡崎市民会館 集会室 中会議室B
第14回川部会 まとめの会（●名）	1月31日（火） 14:00～17:00	豊田市崇化館交流館

※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

3.川部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

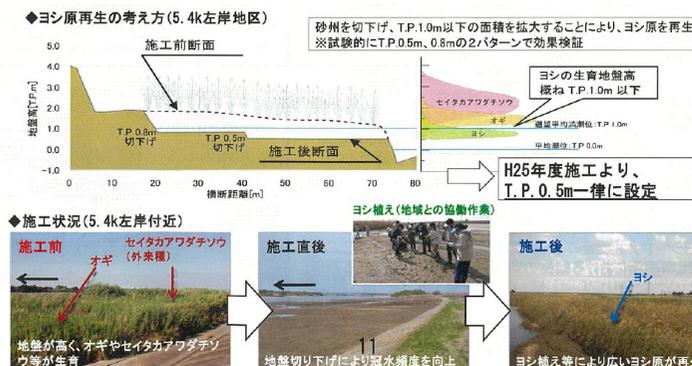
①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜流域における土砂の役割を再認識するとともに、山・川・海の立場に共通する望ましい条件を抽出し、関係する国や自治体に、その条件を共有する。＞

- 海・川合同部会（11月22日）にて土砂をキーワードに矢作川本川の事業の取組みについて、国・県・市・市民の人と現地視察および意見交換を行い、土砂の役割を再認識するとともに矢作川流域の望ましい条件について共有した。
- 鵜の首地区水位低下対策事業では、令和2年度より明治頭首工より上流の河道掘削工事が実施されており、鵜の首の狭窄部区間の開削により川幅を広げるとともに、発生した土砂を海まで運搬し、干潟・浅場造成に利用するという報告がなされた。
- 山や川で不要な土砂を海で活用していくことで、海の生き物にとっても生息しやすい環境となる。また、今後、総合土砂管理などで山・川・海で協力体制ができればよいとの意見交換を行った。



鵜の首地区水位低下対策事業について
(資料一部抜粋)



ヨシ原再生の考え方 (資料一部抜粋)



意見交換の様子

3.川部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）、干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）について、海部会と合同で状況を把握し、双方の利益に関する意見交換を行う。また、より好ましい事業に向けて、関係者への働きかけを行う。＞

- 鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）、干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）、ヨシ原再生事業について、海・川合同部会（11月22日）を実施し、各事業について現地視察および会議室での意見交換を行った。
- 鵜の首地区の狭窄部を広げることで洪水時の氾濫抑制にも繋がり、また、掘削で発生した土砂を海に運搬し干潟を造成することで、干潟で生息する生き物の保全活動にも繋がる。
- 干潟造成箇所やヨシ原再生箇所において、今後、他部会や外部団体と一緒に生き物観察等を実施できるとよいつの意見交換がなされた。



鵜の首の掘削の解説の様子



ヨシ原再生の解説の様子



干潟造成の工事の様子



集合写真（海・川合同部会） 4

3.川部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

②支川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

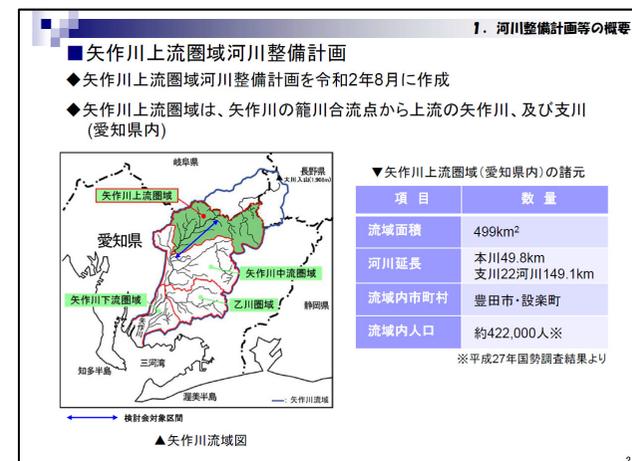
※本日意見交換

＜支川で活動する団体を訪問し、流域における支川の役割をとりまとめる（川部会の記録として残す）。＞

- 矢作川水系矢作川古川の支川である一級河川広田川（菱池遊水地）での大規模特定河川事業について解説いただき、記録として残していくため、流域における支川の役割についてとりまとめた。
- 支川の役割でもある治水や生き物の生息環境づくり、憩いの場の事例として、広田川での菱池遊水地の利活用について意見交換を行った。
- 矢作川上流圏域河川整備計画・川づくり計画基本設計について、情報提供された。



大規模特定河川事業について（資料一部抜粋）



矢作川上流圏域河川整備計画について（資料一部抜粋）

3.川部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

③地域連携モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<ごみ問題に関する情報共有を行う。>

- 第61回川部会WG（12月12日）にて、野田氏（矢作川環境技術研究会）より、矢作川流域圏と近隣流域における川・海ごみの分布と特徴について情報提供した。
- ごみの密度は、矢作川下流では100mあたり概ね10～20個の範囲にあると報告された。
- マイクロプラスチックの密度は、矢作川は豊川と比較して密度が低い河川になっていると報告された。



野田氏



ごみの問題についての発表の様子（第61回川部会WG）

（川ごみ 矢作川 6.0k 付近～6.6k 付近（左岸））



写真 17 護岸・オギ原間
散在するペットボトル（図 5 参照）



写真 18 ヨシ原・ヤナギの根元のゴミ
ペットボトル・プラスチック類（図 5 参照）



写真 19 河川敷公園・駐車場の隅に捨てられたゴミ
マスク、レジ袋、空き缶、プラ容器、
食品包装シート（図 5 参照）

ごみ問題についての資料一部抜粋（野田氏提供）

3.川部会の活動進捗報告 | 令和4年度の活動成果

③地域連携モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<外部団体（生態系ネットワーク協議会等）と連携する。>

- 矢作川流域圏懇談会の活動を見直し、広げていくための取組として、西三河南部生態系ネットワーク協議会（以降、協議会とする）との連携をはかった。
- 協議会は、干潟観察会や生き物ふれあい観察会などのイベントを実施しており、海部会と関連していることから、海・川合同部会（11月22日）にて、次年度から共同で連携をはかっていきと川部会から海部会へ提案した。
- 第61回川部会WG（12月12日）に、協議会会長の谷地先生（人間環境大学）をお招きし、協議会の活動紹介をしていただき、ブレインストーミングを行った。（次頁参照）
- 矢作川流域圏懇談会がプラットフォームとして機能し、ヨシ原再生に関するイベントやバスツアーにお呼びするなどの連携ができればよいとの意見が挙がった。



一色干潟での観察会（協議会活動紹介_資料一部抜粋）

観察会の様子



外部団体との連携手法に関する意見交換の様子
（第61回川部会WGにて）

①現状の矢作川流域圏懇談会（特に川部会）の課題は何か？

- ・学生の参加が少ない、増やすための対策が必要
- ・連携の可能性があると考えられる組織（例：生態系ネットワーク協議会）とまだうまく連携がとれていない
- ・流域圏として何を軸として課題・ゴールを設定するか
- ・課題解決の手段の前提
- ・会としての目的の継承
- ・矢作川流域の各ポイントの評価を進めて、改善点を指摘してデザイン化する必要があると思う
（望ましい川の姿をイメージして現状と比して、その改善すべき状況を明らかにするもの）
- ・上流から海までのつなぎ役としての役割が必要
- ・支川と本川の違いをもう少し明確化する方がよいかも
- ・懇談会で議論して出た結論が整備計画に反映されるのか
- ・知るべきことが多いこと
- ・生き物のすみやすい川づくり、上下流共通点、土砂供給不足、川海ごみ問題への対応について話しをすすめること
- ・流域内の都市や農地などが抜けている、川沿いのみ？
- ・川は危険から、川は楽しめる場所にイメージを変えていく
- ・川を通じた生物、自然のつながりが見える化すること

②西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携をとおして解決したい点は何か？

- ・連携により、何を得る・何を与えるかを明確にしたい
- ・学生や企業の参加など多様な主体の参画を促進したい
- ・懇談会に学生の参加を、若い人の考え方を知る
- ・各部会の会員になってもらう
- ・懇談会へ生態ネットワークの関係者にとにかく参加してもらう事
- ・地域とのネットワークのつくり方
- ・観察から行動へを増やす催しをアピールする
- ・地区の状況・情報と川・流域という線・面とをつなぐ作業（可視化・共有・勉強）
- ・生物多様性の内容 自然史、歴史、人とのかかわり、生き物のすみやすさは？
（フローラ相からみて ファウナ相からみて）
- ・外来種駆除を大規模に行うべき
人への急迫した危険性が少ないためボランティアとなってしまうのか ex.火ありは対応が早い

③西三河南部生態系ネットワーク協議会と協働したいことは何か？

- ・おそらく、西三河南部NW側としては、人間的なサポートが欲しい。現状でイベント実施数も多く、これ以上の余力がない。より活性化のためには、運営側の人員が必要（谷地先生）
- ・矢作川下流のヨシ原の再生事業への学生や企画などの参加を促進する
- ・矢作川のヨシ原再生箇所などにおいて、生きものふれあい視察会・学ぶ会を実施する
- ・場の創出（干潟・ヨシ原）に対して意見交換 なぜ？どうして？
- ・勉強会・観察会等の情報交換をして、お互いに参加しあう、また講師などもお願いし合うと良いと思う
- ・海部会との共有化（イベント・学び）、互いへの人の呼び込み
- ・人間環境大学の教員、学生との専門分野での協力関係を築く
- ・メンバーの固定化からの脱却（新たな視点）
- ・懇談会メンバーにいないようなメンバーを入れての課題に対する意見交換（新たな視点の発見）
- ・企業参加を協同で促す
- ・他協議会の活動内容についても多少知る、情報交換・交流の推進
- ・双方が地区間セクターを超えて交われる
- ・川との関係との学びの場
- ・水、水質（物質）、土砂が沿岸とどう重なっているかを知る、考える、わからないことを知る
- ・矢作川や三河湾での生態観察とゴミひろい
- ・地形、生物、防災に関する知識講座など
- ・土地利用の成り立ちと歴史など

④来年度、西三河南部生態系ネットワーク協議会と協働したいことは何か？

・イベントがルーチン化していて少し飽きてきた、何か新しい企画、川部会ならではのイベントをやりたい

(谷地先生)

・イベント情報の交換、予定の案内、成果報告の案内 (学習含め)

・海部会とのイベントや情報交換

・勉強会や観察会等の情報交換をして、お互いに参加しあう、また講師などもお願いし合うと良い

・ヨシ原再生でのイベントと一緒に参加

・バスツアーに参加してもらう

・現地活動 (FW) 合同の情報交流、見学など (現場での学び、問題の話し合い意見感想)

・イベントに参加してもらう

・協議会の活動への参画 (参加) (協議会の活動実態を知る)

・人的交流の幅を広くする

・人間環境大学で川部会 (他部会) を開催して複数の教員の話聞く

・岡崎市へ働きかけて、市民大学のテーマに採用していただき、市民会館の大ホールでの催しの講師をする (コロナで中断)

・植物や土壌の大切さを伝える機会を増やす、都市のコンクリート化や土は汚いイメージを変える

・地形や防災の講座 (矢作川流域圏懇談会主導で)

矢作川流域圏懇談会

令和5年度 川部会 活動目標

令和5年1月31日（火）

4.川部会の次年度の活動目標（案）

次年度の活動目標（案）

- 流域治水を軸に継続して情報共有や意見交換を行うとともに、他部会や外部団体を巻き込みつつ、次世代の担い手などが参加したくなるような楽しい部会を創造する。

テーマ別の活動方針（例）

①本川モデル

- 鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）や干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）について途中経過の状況を把握するとともに引き続き他部会との情報共有および意見交換を行う。

②支川モデル

- 支川で活動する団体を訪問し、流域における支川の役割を継続してとりまとめる（川部会の記録として残す）

③地域連携モデル

- プラットフォームとして機能することを目指し、外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携を深める

4.川部会の次年度の活動内容（案）

テーマ別の活動目標に対する活動内容（案）

①本川モデル

- ①他部会との合同部会を行い、鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）や干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）の途中経過状況について、豊橋河川事務所や愛知県農業水産局に情報提供いただき、意見交換を行う。
- ②数年後、本事例について海部会と共同で外部に発信することを目指し、今後の土砂や生き物の動きについて取りまとめていく。

②支川モデル

- ①次年度以降に流域圏担い手づくり事例集で取り上げる（発信）ことを目指し、乙川などの支川で活動している団体の情報を収集し、部会内で共有する。
- ②かわまちづくりに関与する行政や関係機関から矢作川流域内で取り組んでいるプロジェクトについて、話題提供いただく。
- ③水害におけるソフト対策について、情報提供いただく。

③地域連携モデル

- ①ヨシ原再生など流域内のイベントやバスツアーなどの情報を協議会に共有する（プラットフォームとなるとよい）。
- ②ごみ問題について、他部会と情報交換する。
- ③西三河南部生態系ネットワーク協議会などが主催するイベントに参加し交流を深める。